



川崎駅周辺の災害時における 行動ルール

大地震が発生すると、交通機関の運行停止により、主要駅を中心に多くの人が滞留し、混乱することが予想されます。

このため、川崎駅周辺の各機関の役割分担の明確化と、関係機関が相互に連携した取組を「川崎駅周辺の災害時における行動ルール」として定めています。

駅周辺の各施設、従業員、利用者等のみなさまにおかれましては、災害における地域としての備えに向けた取組に協力をお願いいたします。



Colors, Future!

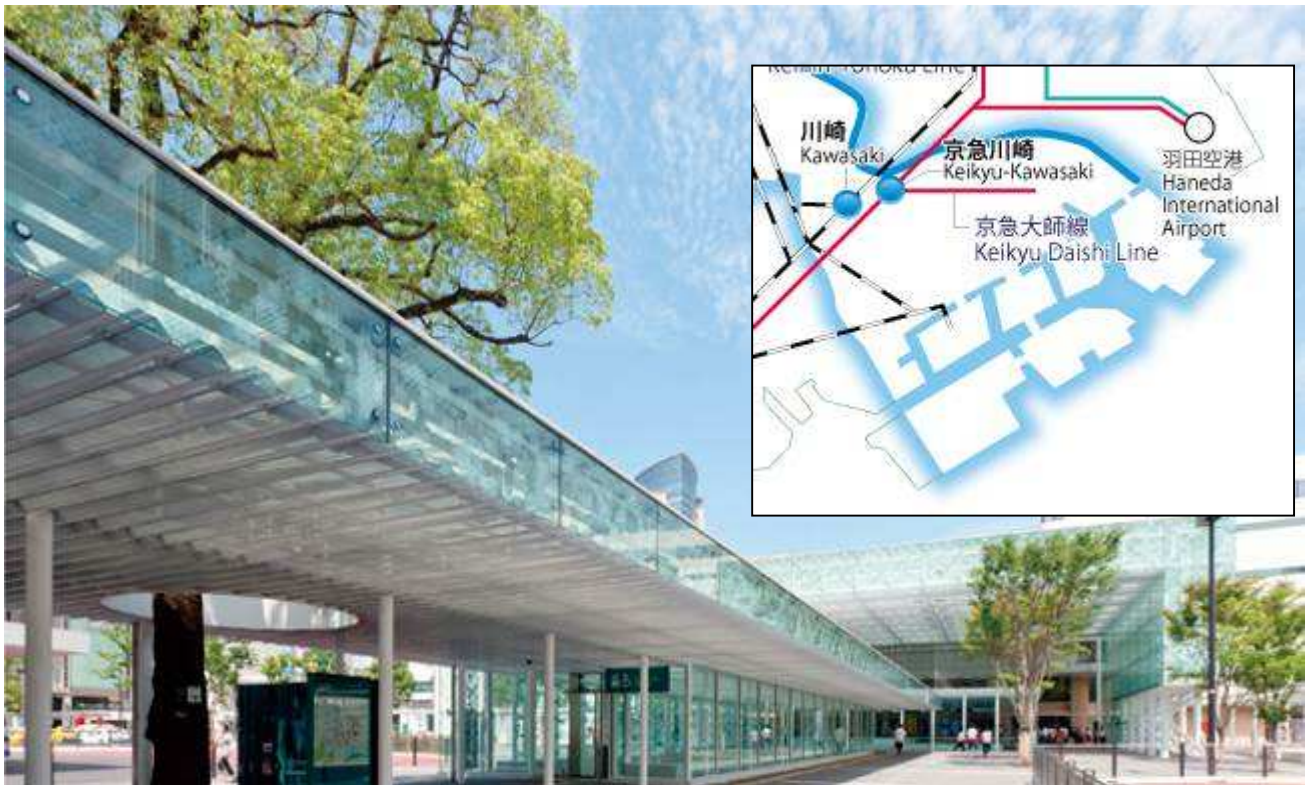
いろいろって、未来。

川崎市

(令和7年7月改定版)

川崎駅周辺の特徴

川崎駅は、東京と横浜の間に位置し、羽田空港も近いなど交通アクセスに優れ、交通・産業・文化の拠点である川崎の玄関口となっています。



川崎駅、京急川崎駅、バスターミナルでは通勤や買い物など多くの方に利用されています。

川崎駅周辺には、大型商業施設、企業の業務ビル、高層住宅などが数多く立地し、都市機能が集積しています。そして、年間を通して多彩なイベントがあり、活気に満ちあふれる地域となっています。



早朝の川崎駅



早朝の川崎駅バスターミナル



山王祭



アジア交流音楽祭

行動ルールの概要

想定被害

川崎市直下の地震(マグニチュード 7.3)により、駅前には約 19,000 人の帰宅困難者が発生

P3

目標 滞在者の安全確保と混乱の抑制を図る

役割分担

各組織における対応内容を地域で共有し、自助、共助、公助で対応策を検討

自助

施設ごとに、身の安全確保と落ち着いた行動を徹底

P5

共助

川崎の地域力で、正確な情報提供と適切な誘導

P13

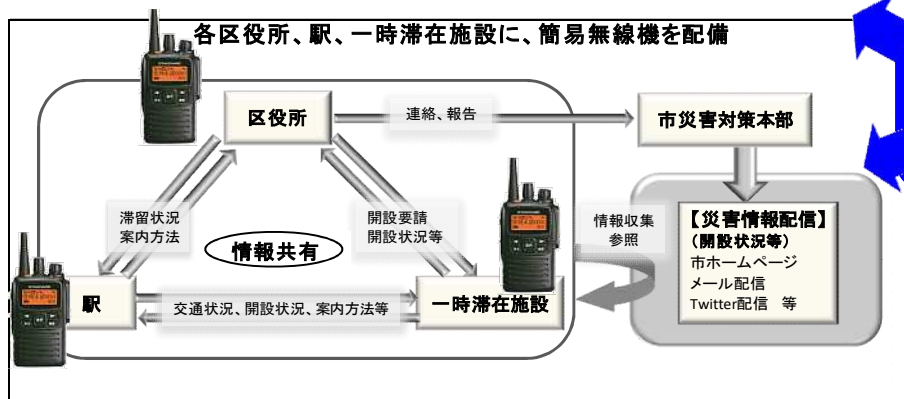
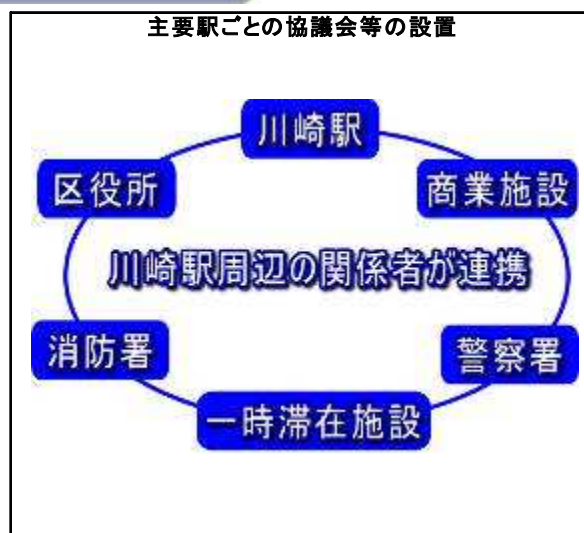
公助

目標の達成に向けて、地域における対応を支援

P20

連携体制

駅周辺の関係者が連携した対応
(案内・誘導、情報提供、災害時要援護者等への支援など)

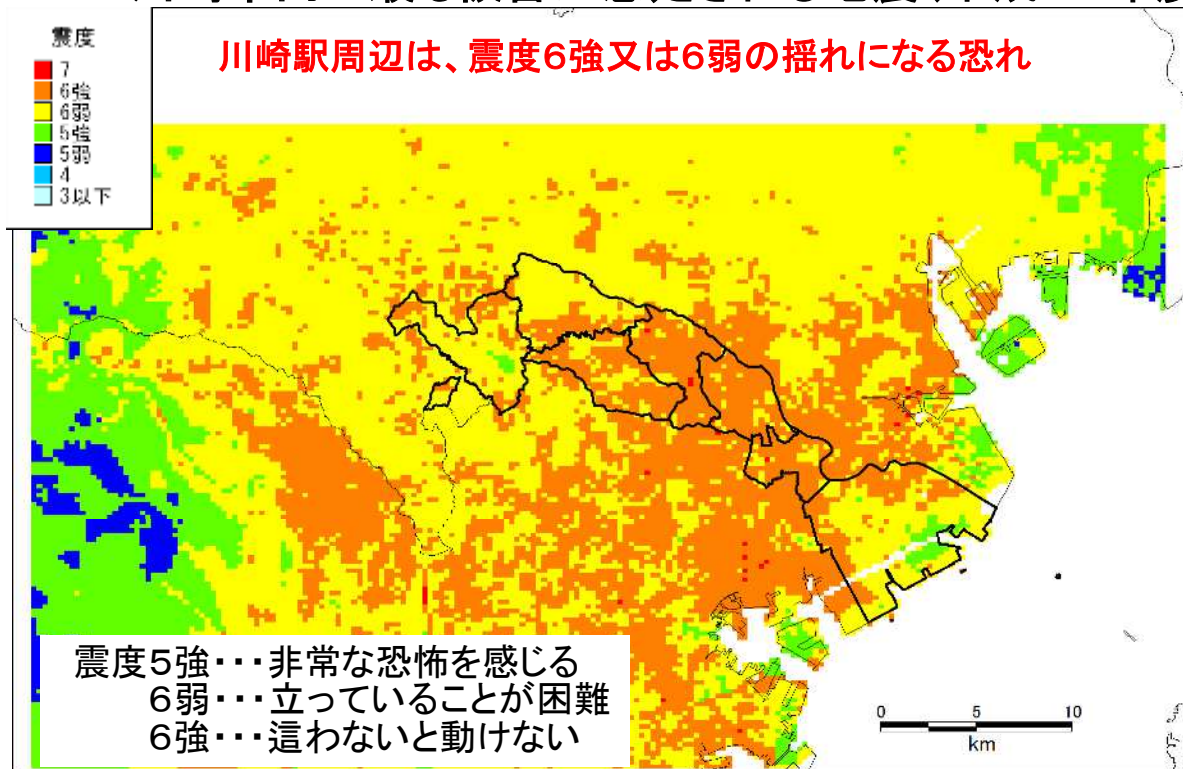


全国に先駆け、川崎市独自に導入した一時滞在施設への誘導支援ツール

地震被害の想定

川崎市直下の地震(M7.3)

・・・川崎市内に最も被害が想定される地震(平成24年度想定)



種別	被害項目	川崎区	幸区
世帯数・人口	(令和7年4月1日現在)	2,32453 人 129,639 世帯	174,733 人 84,826 世帯
建物被害	全壊棟数	6,543 棟	4,649 棟
"	半壊棟数	10,964 棟	6,314 棟
地震火災	出火件数	36 件	33 件
"	焼失棟数	3,987 棟	2,394 棟
人的被害	死者数	235 人	156 人
"	重軽傷者数	3,980 人	2,384 人
ライフライン	上水道断水世帯数	64,996 世帯	50,226 世帯
"	下水道機能支障世帯数	86,845 世帯	64,720 世帯
"	停電世帯数	66,682 世帯	43,244 世帯
"	一般回線電話の不通件数	市内加入電話の約 20%	
生活支障等	避難者数	67,689 人	56,363 人
"	駅前滞留者数(私用等)	19,128 人(川崎駅)	
"	駅前滞留者数(従業員、学生)	43,649 人(川崎駅)	

東日本大震災を受けての課題

1 平成23年3月11日 首都圏で515万人の帰宅困難者が発生

- ・主要駅を中心に帰宅困難者が滞留
- ・徒歩帰宅者が大量に発生
- ・激しい道路渋滞
- ・休憩場所として住民用避難所などの施設を開放
- ・情報錯綜など様々な課題が発生

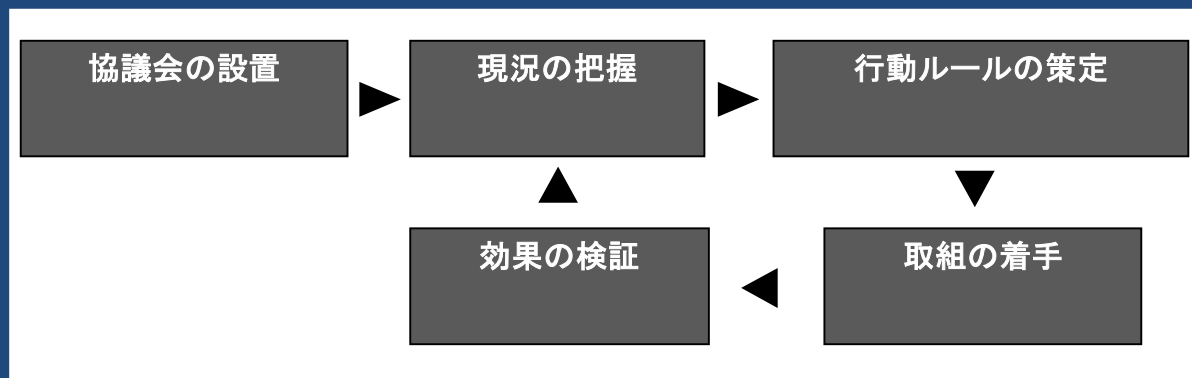
2 川崎市内でも、約5,500人の帰宅困難者を施設で受け入れ

- ・川崎駅:3,000人超が市要請施設に避難
- ・上記の施設以外でも、帰宅困難者を受け入れ
- ・住民用の毛布、上下水道局の飲料水を配布
- ・情報の錯そう
- ・小売店における品薄状態など様々な課題が発生



川崎駅周辺における対応

東日本大震災の教訓から、課題を抽出し、
川崎駅周辺の地域特性を踏まえた対応策を検討



協議会で課題を共有し、対応方法について検討を重ねながら
川崎駅周辺の災害時における行動ルールを策定し、訓練を通じて検証していく

自助 会社や学校、集客施設で備えること

大勢の帰宅困難者が一斉に帰宅すると、道路や歩道が混雑し、救助活動に支障をきたします。

また、災害発生後すぐに帰宅すると二次被害に遭う可能性があり、大変危険です。



災害発生時は「むやみに移動を開始せず、安全な場所で身の安全を確保する」ことをみんなで徹底しましょう。(一斉帰宅の抑制)

1 対応マニュアルの作成と周知

■ 消防計画などの施設の防災計画

災害時の初期対応や被害状況の確認、救出救護、エレベータ停止、地震による出火、設備損壊、インフラ不全、避難誘導への対応手順



従業員や利用者の保護

- ・施設内又は周辺の広場等の一時的避難場所
- ・誘導棒の準備、高齢者等の災害時要援護者への配慮
- ・施設の安全点検チェックリスト

地域との連携体制

■ 事業継続計画(BCP)の作成、運用

中小企業庁のホームページ等を参考に、緊急事態に備えましょう。

<https://www.chusho.meti.go.jp/bcp/>

■ 対応マニュアルは、従業員や関係店舗等に確実に伝えましょう。

2 訓練の実施、応急手当等

■ 定期の防災訓練で施設内待機手順も確認

■ 各種の訓練に積極的に参加

(退避スペースまでの避難誘導訓練、情報伝達訓練、駅における帰宅困難者対策訓練、一時滞在施設開設訓練、災害用伝言サービス体験訓練など)



■ 消防署等が開催する応急手当講習会の受講

「普通・上級救命講習及び応急手当普及員講習について」

<http://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000068112.html>

3 企業内備蓄、従業員及び利用者の保護

従業員や利用者、児童・生徒等を直ちに帰宅させることなく、施設内に留めることができるよう、施設管理者や店舗の事業者は退避スペースの確保と3日分以上の飲料水等の備蓄をお願いいたします。

■退避スペース 3.3 m²につき2人程度

■備蓄品(3日分以上 ※エレベータが停止した場合に備え、高層ビルでは保管場所を分散化)

飲料水、食料品、毛布、ラジオ、電池、救急セット、災害用トイレ、マスク、消毒液等

4 安否登録、安否確認方法

8ページをご覧ください。

従業員等には事前にNTTや各種携帯電話の災害用伝言サービスを周知し、大地震発生時における安否確認方法を家族で確認しあうよう徹底しましょう。

5 施設の安全点検

施設管理者は施設の安全点検チェックリストを作成しておき、定期的に点検を行っておくなど、速やかに安全点検が行えるようにしておきましょう。

施設の安全点検のためのチェックリスト(例)

点検項目		点検
施設全体		
1	建物(傾斜・沈下)	傾いている。沈下している。 傾いているように感じる。
2	建物(倒壊危険性)	大きなX字状のひび割れが多数あり鉄筋がかなり露出している。壁の向斜めやX字形のひび割れがあるが、ある。
3	隣接建築物・周辺地盤	隣接建築物や鉄塔等が施設の方向に周辺地盤が大きく陥没または隆起し隣接建築物の損傷や周辺地盤の地割と考えられる。
施設内部(居室・通路等)		
1	床	傾いている、または陥没している。 フロア等、床材に損傷が見られる。
2	天井・天井材	間仕切り壁に損傷が見られる。 天井材が落下している。

施設の安全点検チェックリストの一部

6 その他安全対策の徹底

■家具類の転倒・落下・移動防止、ガラス飛散防止対策

■電子掲示板や放送設備等の定期的な点検

■周辺の集客施設との情報交換

■ホームページ等による災害時の対応方法の周知

「川崎市防災協力事業所」として登録しませんか？

地域の一員としてできる範囲内で防災活動に協力し、被害の軽減や地域生活の早期復旧に貢献していただく登録制度です。登録事業者の名称及び協力内容はホームページで公表します。

詳しくは、「川崎市防災協力事業所登録制度」のホームページを御覧ください。

自助 個人で備えること

外出先で地震にあった場合の対応を、あらかじめ考えておきましょう。

非常持出品があなたを救う

非常持出品（一次持出品）とは、避難した場所で何日か過ごすために必要な物のことです。災害時には食べ物や飲み物をほしめ、必要なものがすぐに手に入るにはなりません。玄関の近くなど、避難するときに持ち出しやすい場所にあらかじめ置いておきましょう。

防災メモ 事前に調べて記入しておこう	水・食料	☐ 飲料水 ☐ 携帯食料（ビスケット、缶詰など）
	医療・衛生	☐ 使い捨てトイレ ☐ 携帯トイレ ☐ 衛生用品
	貴重品	☐ 現金 ☐ 印鑑 ☐ 健康保険証・預金通帳（コピー可）
	安全対策	☐ ヘルメット・防災ヘルメット ☐ 厚底の靴 ☐ 軍手
	通信機器	☐ 携帯電話・充電器 ☐ 携帯ラジオ ☐ 懐中電灯 ☐ 電池
防災バッグ	道具類	☐ 折りたたみ寝具・タオル ☐ ライター・マッチ ☐ ナイフ ☐ 包丁 ☐ 入れ歯・眼鏡など
	衣類	☐ 上着（防寒着） ☐ 下着・靴下 ☐ 携帯トイレシート
	生活用品	☐ ウェットティッシュ・ティッシュ ☐ タオル ☐ 小皿・お箸・お茶碗
	感染症対策	☐ 体温計 ☐ アルコール消毒液 ☐ マスク

上記はあくまで一例です。各家庭の事情に合わせてものを用意しましょう。
● 乳幼児がいる家庭ではミルク（粉ミルクや液体ミルク）や製乳機、オムツや乳瓶が必要です。
● 小さなお子さんがいる家庭では、お菓子やオモチャが必要になることもあります。
● お薬手帳の用意があれば、主治医の近くで適切な薬を処方してもらえます。

エコノミークラス症候群を予防するには

エコノミークラス症候群とは、長距離飛行機や列車などの狭い座席に長時間座る（足を動かさない）ことで、血行不良を起こし、手足の麻痺（足の腫れ）や胸痛、めまい、吐き気、頭痛、息苦しさなどの症状が現れる病気です。予防には、長時間の移動中に、定期的に足を動かす、水分を摂る、深呼吸をする、ストレッチを行う、などがあります。

災害時に安定した生活を送る

最低3日間、できれば7日間分の備蓄を

- 大規模な地震や、ライフラインは停止し物資も確保できず、生活は大変なことになることが予想されます。
- このような事態になったとき、市外から物資が届くまで約3日間（物資が十分にいき届くまでの7日間）は、各家庭がそれぞれ備蓄により、生活することが必要です。
- 家庭備蓄が充実していると、結果的に他の避難者や避難所への負担が減るため、家庭備蓄は地域貢献に繋がります。

災害時に必要となる備蓄品（二次持出品）

飲料水・生活用水	食料
● 人間が生きていくためには、1人1日3リットルの飲料水が必要です。家族全員分の飲料水を備蓄しておきましょう。	● お米や乾麺、缶詰など、日持ちのするものが適しています。
● 生活用水は、災害時の様々な場面が必要になります。水を入れたポリタンクを用意しておくか、お風呂の水を溜めておくなど、飲料水とは別に用意しておきましょう。	● 備蓄食料は、普段の生活の中で十分に買い置きし、賞味期限切れ前に消費しながら定期的に買い足すことで、無理なく備蓄できます。（＝ローリングストック）
その他生活必需品	
● 水や食料以外にも、下記を参考に各家庭に必要なものを用意しておきましょう。	
調理器具	カセットコンロ（ボンベも）、簡易食器（紙皿・スプーンなど）、アルミホイル、食器用ラップなど
生活用品	簡易トイレ・簡易トイレシート、簡易トイレ、トイレットペーパー、新聞紙・ビニール袋、寝具、衣類、ドラッグストアなど
その他	車のガソリンを満タンにしておく 必要不急な給油を避けることや、緊急車両への優先給油への協力も必要。

上記は二次持出品とも呼ばれ、避難した場所から取りに帰ることを想定し、持ち出しやすい場所に保管しておくことで、様々な状況で活用することができます。

毎月15日頃市役所避難所まで
「備える。かわさき」は、市役所・区役所で配布しています。

備える。
かわさき



「備える。かわさき」は市役所・区役所で配布しています。



1 徒歩帰宅への備え

職場や学校に置いておくものや、バッグの中に入れておくものを事前に準備しておきましょう。

- 動きやすい靴、□リュックサック、
- 地図、懐中電灯、□携帯ラジオ、
- 防寒着、雨具等、□ビニール袋、
- 携帯食料、飲料水、
- ウェットティッシュ、□携帯トイレ、
- 携帯電話のモバイルバッテリーなど

2 家族で災害時の連絡方法等の確認

大地震等が発生すると、電話がかかりにくくなります。
自分の無事を伝え、家族の安否を確認するには、災害用
伝言サービスの利用が有効です。

日頃から家族で災害用伝言サービスの使い方を確認しておきましょう。



災害用伝言ダイヤル171

171 をダイヤル

登録する場合：① 伝言を聞く場合：②



被災地の固定電話番号を市外局番から入力
録音時間は1件あたり30秒以内。1回線あたり20
件まで登録可能。保存時間は災害時伝言ダイヤル運
用中。

災害用伝言板web171

<https://www.web171.jp>

災害用伝言板 web171 で検索

携帯・PHS 版災害用伝言板との連携によ
り、登録された安否情報を一括で検索可能。
伝言を登録した際に、あらかじめ設定し
ておいた通知先へメールや音声（電話）に
よる伝言登録内容を通知します。

災害用伝言板（携帯電話）

NTTドコモ、au、
ソフトバンクモバイル、
Y! モバイル、楽天モバイル

「無事です」「被害があります」「自宅にい
ます」「避難所にいます」等の状況や、全
角100文字までコメントを入力可能。

被災地で携帯電話番号1つあたり10件
（ソフトバンク・ワイモバイルは80件）
まで登録できます。

確認方法は、携帯電話やパソコンで相手
の携帯電話番号を入力して伝言を検索。

スマートフォンにおいては、専用アプリ

防災テレホンサービス

防災無線で放送した内容を、電話で聞く
ことができるサービス。

① 神奈川県内の加入電話・公衆電話
→ 0120-910-174(無料)

② 携帯電話、PHS、など
→ 044-245-8870(通常の通話料がか
かります。)

受付時間は、24時間、365日。

詳細は、川崎市のホームページにてご確
認ください。

災害用伝言サービスの体験利用日に、家族で確認しよう！

災害用伝言サービスは、災害発生時に提供されるものですが、以下の体験利用日にも運用されており、体験
することができます。

- 毎月1日、15日 ●1月1日～3日 ●防災とボランティア週間 1月15日(9:00)～21日(17:00)
- 防災週間 8月30日(9:00)～9月5日(17:00)

自助 施設ごとに、身の安全確保と落ち着いた行動を徹底



緊急地震速報とは、

地震発生後、強い揺れが到達する前の注意喚起です。

周囲に身の安全を確保するよう、呼びかけましょう。

身の安全確保



従業員・利用者の安否確認

テレビ、ラジオで災害状況も把握しましょう。



施設の安全点検(施設安全点検チェックリスト) (建物の損傷、周辺の災害状況を確認)

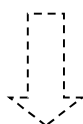
安全な場合

危険な場合

施設の安全点検をしている間、施設利用者に対して現状の説明を行うなど、落ち着いた行動を促します。

施設内待機

収容能力を超えた場合



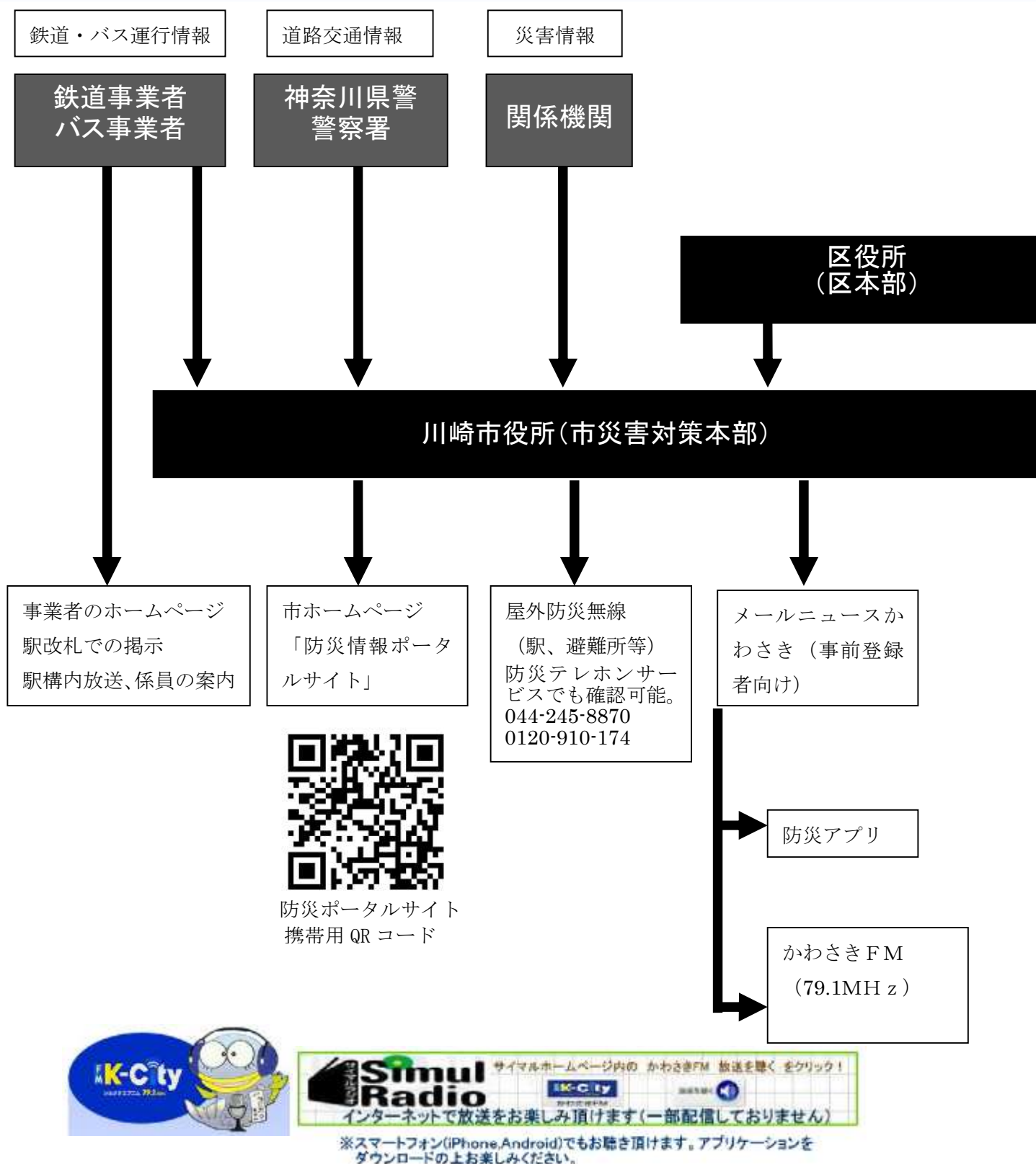
施設関係者が利用者を避難場所まで案内・誘導し、混乱の抑制と滞留者の安全確保に努めてください。

一時滞在施設又は広域避難場所等へ案内・誘導

(一時滞在施設等の開設情報を基に、買い物客等の利用者及び従業員等を一時滞在施設又は広域避難場所等へ案内又は誘導する。)

※付近の広域避難場所：川崎競馬場、川崎競輪場、富士見公園、御幸公園

施設		とるべき対応（役割・活動）※災害の状況に応じて可能な限り実施	
駅	駅舎内では災害時は駅が指揮をとり、関係機関と調整しながら混乱の抑制を図ります。東西自由通路および北口通路の滞留状況確認や入場制限は川崎区が関係機関と連携して行います。	乗客、利用者の安全確保	
		改札前での利用者への運行状況の案内(区に状況報告)	
集客施設	各施設内では施設管理者が指揮をとり、可能な限り警備服やビブス等を着用し、分かりやすい服装で誘導します。	乗客、利用者を一時的な避難場所(駅前広場等)に誘導	
		施設の安全点検(可能な限り速やかに実施)	
		施設が安全な場合: 駅構内で乗客や駅前滞留者を保護	
		トイレや休憩スペースを開放	
		収容能力を超えた場合、一時滞在施設に誘導	
		施設が危険な場合: 一時滞在施設又は広域避難場所等に誘導	
商店街		交通情報、一時滞在施設の開設状況、災害情報の提供	
市役所	区本部	従業員・利用者の安全確保	
		施設内か一時的な避難場所(駅前広場等)に誘導	
		施設の安全点検(可能な限り速やかに実施)	
		施設が安全な場合: 施設内で従業員・利用者を保護	
警察		収容能力を超えた場合、一時滞在施設に誘導	
		施設が危険な場合: 一時滞在施設又は広域避難場所等に誘導	
		可能な限り、トイレや休憩スペースを開放	
バス・タクシー		交通情報、一時滞在施設の開設状況、災害情報の提供	
学校等		買い物客等の安全確保	
		メールやツイッター、ラジオ等による災害情報を買い物客等に提供	
		徒歩で帰れない買い物客等を駅前広場等に案内、可能な限り、トイレの提供	
企業		ガス等を使用しないなど、安全な状態での営業(被災の程度による)	



かわさきFM (79.1MHz) では、市災害対策本部からの市の災害情報や交通情報を繰り返し放送。

- ・ 停電等で電源が無い場合、ラジオでの情報収集は有効です。
- ・ ラジオの電波が届かない場合でも、「サイマルラジオ」でインターネット環境により視聴できます。
- ・ 「Listen Radio (リスラジ)」アプリをダウンロードすれば、全国どこでも視聴できます。

川崎市立保育園

震度6弱以上の場合、保護者が来るまで園で子どもを保護します。

あらかじめ園と保護者との間で、子どもの安否確認手段について確認しておきましょう。

(川崎市立保育園はホームページ等による)

川崎市立学校

児童生徒が学校にいるときに、震度5強以上の地震が発生した場合、小学校、特別支援学校においては、すべての児童生徒を保護者に直接引き渡すことを原則としています。また、中学校、高等学校ではあらかじめ保護者と合意した方法により下校させます。

区役所 (区本部)

川崎市役所(市災害対策本部)

t v k (テレビ神奈川:3ch) のデータ放送(dボタン)

緊急速報メール
(NTTドコモ, au, ソフトバンクモバイル, 楽天モバイル)

X
(kawasaki_bousai)

デジタルサイネージ
川崎駅東口に設置されているデジタルサイネージを発災時に災害情報に切り替えます。



令和6年8月時点

北口プロジェクター



JR 川崎駅北口通路改札前に設置されているプロジェクターでは、災害時にはYOUテレビ(株)により、NHKの緊急放送が放映もしくは災害情報をテロップで表示されます。

河川情報表示板

京浜河川事務所がJR川崎駅中央通路西口側に設置している大型ビジョン。非常用電源を備えており、発災時は災害情報を表示します。



アゼリアビジョン



川崎アゼリア(株)がJR川崎駅中央通路の東口側に設置している大型ビジョンでは、災害時にNHKの緊急放送が放映されます。

1 川崎の地域力

活用可能な地域資源

○コミュニティ放送 かわさき FM(79.1MHz)

インターネットからの視聴も可能

○公衆無線 LAN のスポット

多くの店舗でWi-Fi スポットを利用可能

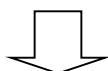
かわさき Wi-Fi を利用可能

(東口バスターミナル、川崎アゼリアサンライト広場等)

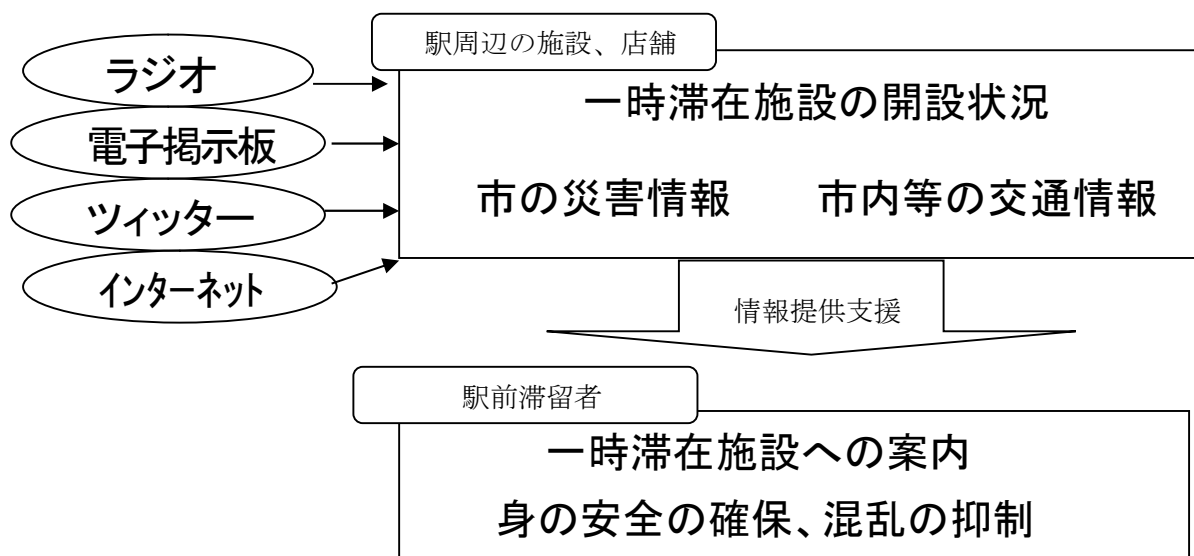


(QRコード: かわさき Wi-Fi アクセスポイント等)

○日頃の地域ぐるみのイベントによるフェイス・トゥ・フェイスな関係から、
活気あるマンパワーによる地域連携



■これらの地域資源を有効に活用し、正確な情報を地域で共有

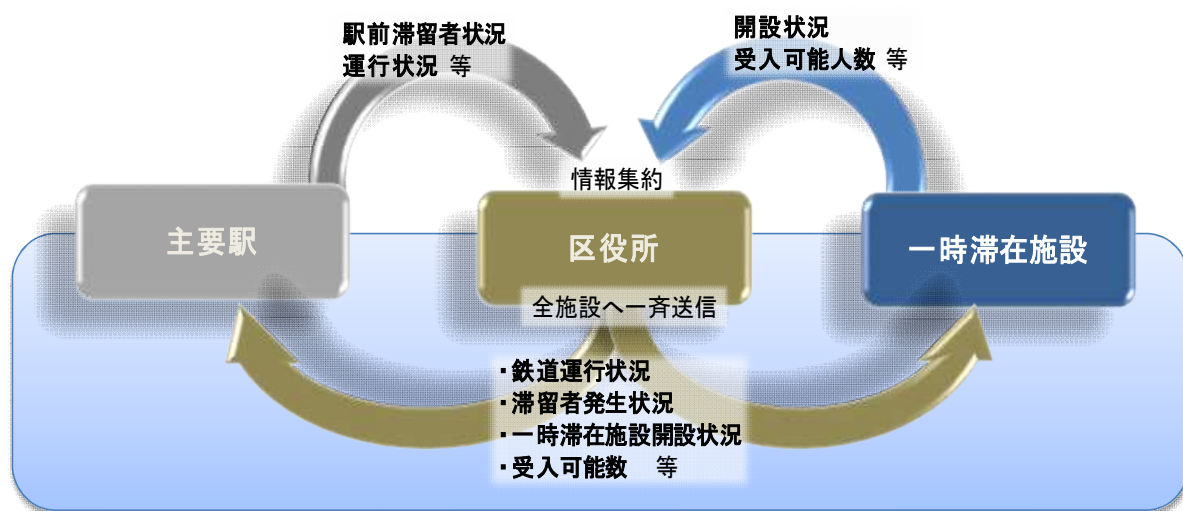


■その他、トイレの提供・案内、安全な避難経路への誘導、災害時要援護者への支援、負傷者等対応、屋外滞留者の駅前広場等への誘導など、地域をあげて対応

2 区・駅・一時滞在施設の情報共有

駅、区役所、一時滞在施設間で、簡易無線機等による情報交換を行い、一時滞在施設の開設、運営状況を適宜確認し、帰宅困難者の案内、誘導を的確に実施します。

また、簡易無線機を設置している駅、区役所、一時滞在施設間で毎月1回の通信訓練を実施し、確実な情報共有が図れるように確認しています。



3 一時滞在施設以外の集客施設、商店街、企業・学校等

区役所で集約した情報は、市の災害対策本部に連絡し、ホームページやツイッター、メール、FM ラジオなどの各種のメディアで広報します。

各施設においては使用可能なメディアから情報を取得し、誘導、支援、利用者保護に努めてください。

川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会



平成 24 年 9 月、川崎市では、川崎駅における大地震発生時の帰宅困難者対策を協議、推進するため、交通事業者、一時滞在施設、商業施設、警察署、消防署等の関係機関で構成する、川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会を設置しました。

平成 24 年度は内閣府の都市再生安全確保計画策定事業を活用して、災害時における行動ルール案を策定しました。

平成 25 年度は国土交通省の都市安全確保促進事業を活用し、帰宅困難者対策訓練を初実施することで、災害時における行動ルールの検証を行い、ソフト・ハードの両面对策の実行計画となる都市再生安全確保計画を策定し、同時に、計画のソフト面の対策となる、災害時における行動ルールを策定しました。

平成 26 年度以降は、帰宅困難者対策や連携を推進する会議を開催すると共に、帰宅困難者対策訓練を実施・検証することで、帰宅困難者対策の強化に取り組んでおります。

年度	内容
平成 24 年度	川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会（計4回開催）
平成 25 年度	川崎駅周辺地域都市再生緊急整備協議会への参加 都市再生安全確保計画作成部会への参加 川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練の実施 →川崎駅周辺都市再生安全確保計画の策定 （災害時における行動ルールの策定を含む。）
平成 26 年度 ～ 令和6年度	川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会 （年3回開催、会議2回、訓練）



川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会委員名簿

交通事業者	JR東日本横浜支社
	JR川崎駅
	京浜急行電鉄
	京急川崎駅
	川崎市交通局
	川崎鶴見臨港バス
	東急バス
	神奈川県タクシー協会
一時滞在施設	川崎市産業振興会館
	川崎市教育文化会館
	川崎アゼリア株式会社
	川崎日航ホテル
	川崎商工会議所
	幸市民館・図書館
	JR 東日本ホテルメッツ川崎
	ミューザ川崎管理事務所
	ラゾーナ川崎プラザ(三井不動産商業マネジメント)
	京急川崎駅前ビル
	カルッツかわさき
	川崎競輪場
	スペルノーヴァカワサキ
商業施設等	川崎駅広域商店街連合会
	幸商店街連合会
	川崎西口商店会
	アトレ川崎店
	チッタ エンタテイメント
関係団体・企業等	川崎区自主防災組織連絡協議会
	幸区自主防災連絡協議会
	東日本電信電話
	川崎信用金庫
	野村不動産ビルディング
	三井不動産
	キャノン川崎事業所
	第一ビルディング
	住友不動産リパーク川崎ビル
	川崎地域連合
	かわさき市民放送
	YOUテレビ
警察署	川崎警察署
	川崎臨港警察署
	幸警察署
消防署	川崎消防署
	臨港消防署
	幸消防署
川崎市役所関係局	こども未来局・環境局・健康福祉局・まちづくり局・上下水道局・教育委員会事務局
川崎市災害対策本部	危機管理本部
各区本部	川崎区役所危機管理担当・幸区役所危機管理担当

共助 一時滞在施設

1 一時滞在施設とは

一時滞在施設とは、大地震の発生により鉄道等の公共交通機関が運行停止となり、帰宅が困難となって、行きどころのない人を一時的に受け入れる施設です。（利用者は災害時の施設利用ということ認識し、滞在中の損害等は自己責任となることを理解した上で施設を利用できます。）

2 いつ開設されるのか

駅周辺に多数の人が集まり、混乱や事故の発生が予測される場合、区役所が安全の確認がとれた施設に開設の要請をします。
区役所からの要請を受け、受入の準備が整った施設から開設します。

3 開設状況の確認方法

川崎市ホームページ、X(kawasaki bousai)、かわさき FM(79.1MHz)、tvk(テレビ神奈川データ放送)での広報のほか、駅や警察の案内で確認してください。

帰宅困難者一時滞在施設マップ [川崎駅版]

令和6年3月末時点

番号	施設名称	所在地	JR川崎から距離
①	川崎地下街アゼリア	川崎区駅前本町 26-2	100m
②	川崎日航ホテル	川崎区日進町 1	150m
③	ホテルメッツ川崎	幸区堀川町 72-2	50m
④	ミュージア川崎	幸区大宮町 1310	100m
⑤	ラゾーナ川崎プラザ	幸区堀川町 72-1	100m
⑥	川崎工業会館(川崎フロンティアビル)	川崎区駅前本町 11-2	200m
⑦	川崎市産業振興会館	幸区堀川町 66-20	500m
⑧	川崎市教育文化会館	川崎区富士見町 2-1-3	900m
⑨	幸市民館	幸区戸手本町 1-11-2	2.2km
⑩	京急川崎駅前ビル	川崎区砂子 1-3-1	280m
⑪	カルッツかわさき	川崎区富士見 1-1-4	1.2km
⑫	川崎競輪場	川崎区富士見 2-1-6	1.2km
⑬	スベルノヴァカワサキ	幸区大宮町 1-13	300m

最新の一時滞在施設一覧

トイレを利用したいとき

公衆トイレ(東口・西口駅前広場、東田公園、稲毛公園、さいわい緑道)のほか、近くの駅や一時滞在施設、災害時帰宅支援ステーション等の施設でも利用が可能です。

※施設被害により、利用できない場合もあります。

一時滞在施設利用時の注意点

- 余震その他の影響により、建物に危険であると判断された場合には、告知なく施設を閉鎖する可能性があります。
- 災害発生時での施設開放のため、利用に伴うケガや施設の破壊等の損害は自己責任となります。
- 施設を利用する場合は、施設係員の指示に従いましょう。
- 備蓄品の配布の際には利用者同士で協力しましょう。

※一時滞在施設では施設側の職員・従業員だけの帰宅困難者対応は困難です。施設内にいる方で協力して混乱を抑制する必要がありますので、以上の点をあらかじめご理解の上、ご利用ください。

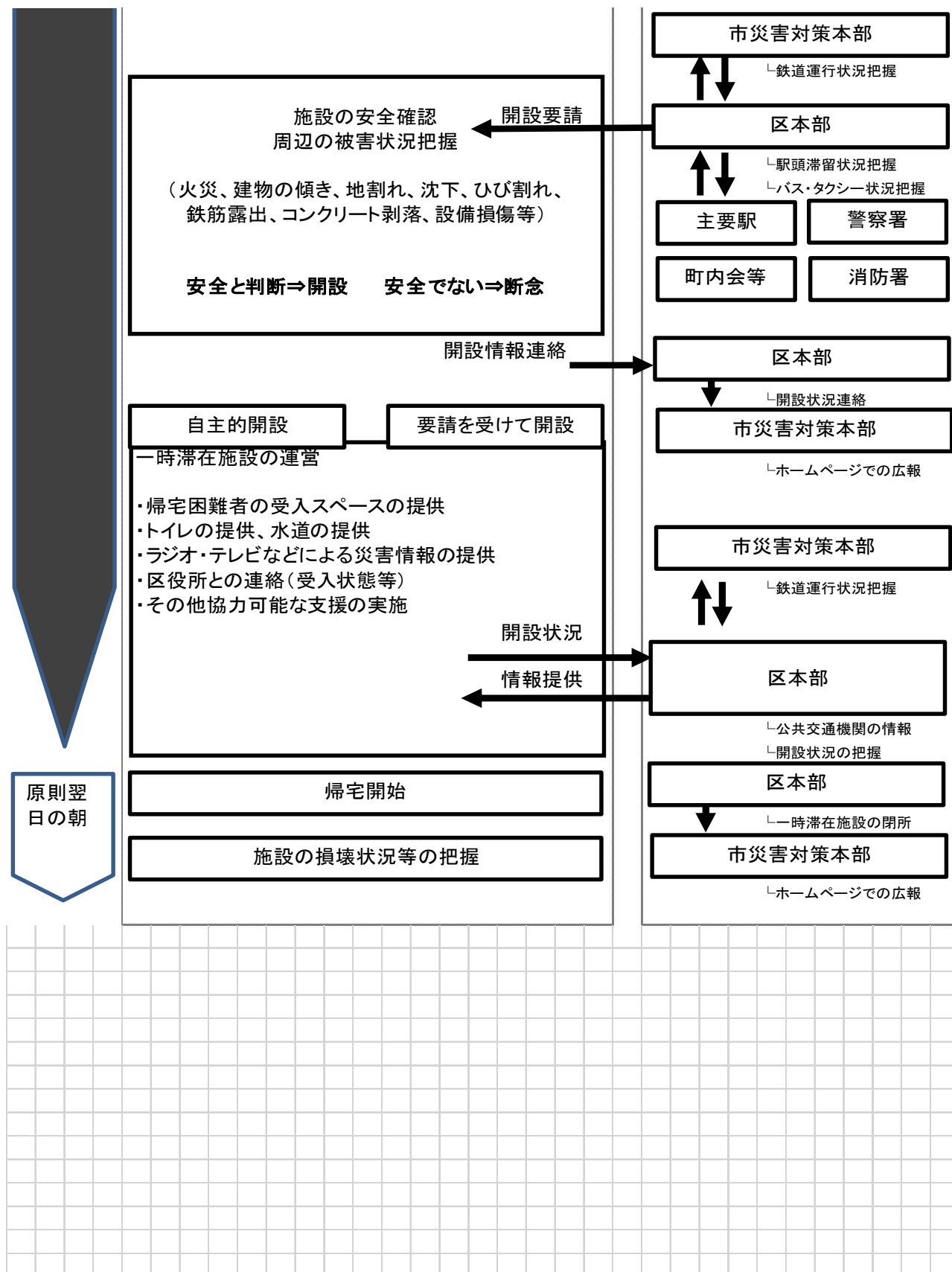
利用対象者(帰宅困難者)

災害時に外出している者のうち、近距離徒歩帰宅者(近距離を徒歩で帰宅する人)を除いた帰宅断念者(自宅が遠距離にあること等により帰宅できない人)と遠距離徒歩帰宅者(遠距離を徒歩で帰宅する人)

個人で備える事前の準備

- 外出時には、飲料水や食料、携帯電話のモバイルバッテリーなどを常に携帯するようにしましょう。
- 職場では、最低でも3日間はそこに留まることのできるように、食料や飲料水などの備蓄をしておきましょう。
- 家族の安否確認などを事前に決めておきましょう。

一時滞在施設の開設までのフロー



災害時帰宅支援ステーション

九都県市・四県市などの取組において、コンビニエンスストアやファミリーレストラン、ガソリンスタンド等の協力店舗では、災害時帰宅支援ステーションとして、水やトイレ、情報の提供について可能な限り支援していただくこととなっています。

○九都県市の協定に基づく災害時帰宅支援ステーション

コンビニエンスストア	セブン-イレブン ファミリーマート ローソンストア100 ポプラ	デイリーヤマザキ ミニストップ ナチュラルローソン	ニューヤマザキデイリーストア ローソン 生活彩家 等
ファーストフード・ ファミリーレストラン	吉野家 天丼てんや カレーハウス CoCo 壱番屋 和食処サガミ ミスタードーナツ	山田うどん食堂 ロイヤルホスト TGI フライデーズ 味の民芸 タリーズコーヒー	デニーズ モスバーガー 焼肉の和民 和食さと 等
居酒屋	三代目 鳥メロ はな(花)の舞	旨唐揚げと居酒屋メシ ミライザカ	さかなや道場 等
カラオケスペース	カラオケバンバン ビッグエコー カラオケパセラ カラオケルーム歌広場	カラオケまねきねこ カラオケ ALL カラオケマック コート・ダジュール	カラオケ館 カラオケの鉄人 カラオケモコモコ JOYSOUND 等
その他	快活CLUB ケアパートナー	ナボリの窯	オートバックス 等

○四県市の協定に基づく災害時帰宅支援ステーション

神奈川県石油業協同組合、日産自動車株式会社、神奈川県日産自動車株式会社、日産プリンス神奈川販売株式会社、株式会社日産サティオ湘南、神奈川県理容生活衛生同業組合、浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組、浄土真宗本願寺派東京教区鎌倉組、神奈川県美容業生活衛生同業組合、生活協同組合ユーコープ、株式会社横浜調剤薬局、株式会社横浜菊名薬局、株式会社東戸塚調剤薬局、生活クラブ生活協同組合・神奈川、横浜北生活クラブ生活協同組合、横浜みなみ生活クラブ生活協同組合、かわさき生活クラブ生活協同組合、湘南生活クラブ生活協同組合、さがみ生活クラブ生活協同組合、生活協同組合うらが CO-OP、全日本海員生活協同組合、株式会社村内外車センター、神奈川県遊技場協同組合、AIR オートクラブ神奈川ブロック、株式会社関東マツダ、株式会社ホンザン、ウエインズヨタ神奈川

右のステッカーが目印です。



災害時帰宅支援ステーションステッカー

公助 目標の達成に向けて、地域における対応を支援

1 一時滞在施設用備蓄について

帰宅困難者用として、簡易食料、飲料水(500mlペットボトル)、防寒シート、簡易トイレ及び感染症予防対策品を備蓄しています。

これらの備蓄は、備蓄倉庫等に保管しておりますが、迅速な利用者への配布を目指すため、一時滞在施設への設置につきまして、御協力をお願いいたします。

備蓄の保管場所が無い施設へは、区役所を通じての搬入となります。



2 一時滞在施設の確保について

一時滞在施設の確保にあたり、各施設に対して協力を求めています。

(1) 帰宅困難者対策用無線機の整備

区役所、駅、一時滞在施設との通信手段の確保として、簡易無線機を整備しています。

(2) 特設公衆電話の整備について

災害時の通信手段確保のため、引き続き、特設公衆電話を一時滞在施設に整備し、利用者の安否確認等に活用します。

3 帰宅困難者向け防災必携マニュアルの作成

災害時案内用として帰宅困向け防災必携マニュアルを作成し、JR川崎駅及び京急川崎駅に配備しています。帰宅困向け防災必携マニュアルは、区役所などで配布しています。



違法駐車や歩道の不法占拠、屋外広告物の転倒・落下防止策について、関係者にさらなる徹底を求め、ボトルネックの解消に努めます。

内閣府及び国土交通省の都市安全確保促進事業を活用し、「都市再生安全確保計画」を作成し、ソフト・ハードの両面による帰宅困難者対策の着実な推進を図ってまいります。

[illegible]

A photograph of a modern building entrance. On the right, there is a large, white, rectangular structure, possibly a wall or a large door, with a dark frame. To its right is a glass door with a dark frame. The building's facade is made of dark, perforated metal panels. On the left, a paved walkway leads towards a bright, open area, possibly a courtyard or a large entrance. The overall scene is brightly lit, suggesting daytime.



帰宅困難者への支援内容

1 地震発生直後

(1) 身の安全の確保

施設ごとの消防計画や防災マニュアル等に沿って、施設内の利用者を館内放送や従業員等の誘導により、安全な場所に避難させてください。

施設内に安全な場所がない場合は、駅前広場等に一時的に避難することとします。

施設安全点検チェックリストを使用して、施設及び周辺地域の安全を確認した後、利用者を施設内で保護します。安全が確認できない場合は従業員等とともに一時滞在施設又は広域避難場所等に避難します。

屋外にいる帰宅困難者には、周辺の施設や商店街などが声をかけ、駅前広場などの安全な場所に避難させてください。

高齢者、障害者、妊婦、子ども、外国人など、避難に支援が必要な場合は、付近に協力を呼びかけながら避難支援を行います。

(2) 従業員・利用者の安否確認

揺れが治まり、施設の安全点検を行っている間、施設内に従業員や利用者が逃げ遅れているなどしていないか確認します。

(3) ケガ人への対応

災害発生直後は、多数のケガ人が発生したり、電話がつながりにくくなったりすることで、救急車を呼ぶことが困難になります。必要なら心肺蘇生法(CPR)を行い、AEDを使用するなど応急手当を施すことで、救急車が到着するまで命をつなぐ対応が必要です。

(4) 情報の提供

保護している利用者や、近くの避難者等に対し、テレビやラジオのほか、ホームページやメール、ツイッターなどの川崎市の災害情報を提供します。

2 多数の帰宅困難者の滞留が発生

(1) 一時滞在施設を開設する場合

首都圏で震度5弱以上を観測し、各鉄道が運行を停止し、復旧の目途が立たず、駅前に多くの帰宅困難者が滞留、又は滞留の恐れがある場合に、区役所が駅と一時滞在施設に調整して、一時滞在施設に開設要請します。一時滞在施設で施設の安全点検が終了し、受入準備が整ったら開設となります。

(2) 一時滞在施設受入対象者

帰宅困難者のうち拠りどころのない人が施設の受入対象者となります。

大型集客施設などの利用者は施設内、従業員はオフィスに留まることとし、収容能力を超えた場合は一時滞在施設に施設管理者が案内することとします。(駅や大型集客施設でも利用者保護の準備を進めています。)

3 帰宅困難者の避難場所等への誘導方法

(1) 駅

区役所に対して鉄道の運行状況や駅前の滞留者の状況を報告し、一時滞在施設の開設状況を確認するなど、区役所と連携して利用者及び駅前滞留者の安全確保に向けた対応方法を決定します。

要支援者を優先するなど、利用者及び駅前滞留者を駅構内で保護します。

その後、一時滞在施設マップ、構内放送、張り紙等を使用し、区役所と連携しながら一時滞在施設の場所を案内します。

(2) 大型集客施設、商店街（一時滞在施設以外）

川崎市からの災害情報（メールニュースかわさき、X(kawasaki_bousai)）を確認しながら、一時滞在施設の場所を案内します。可能な限り、帰宅困難者に対してトイレや休憩スペースの開放に御協力ください。

(3) 一時滞在施設

区役所と連携して帰宅困難者を受け入れます。受入準備が完了していない場合や、収容能力を超えた場合、余震等で施設が使用できなくなった場合等は、区役所からの指示を受けて、他の一時滞在施設等を案内します。

(4) バス、タクシー

駅前広場を中心に滞留している帰宅困難者に対し、川崎市からの災害情報などを提供し、一時滞在施設等への誘導を支援します。

4 トイレ

駅周辺のトイレとしては、駅構内、駅前広場や公園、災害時帰宅支援ステーションの協力店舗、一時滞在施設のトイレのほか、富士見公園のマンホールトイレがあります。（周辺の商業施設でも可能な限りトイレを開放してください。）

5 一時滞在施設での支援

(1) 館内誘導

帰宅困難者を受入スペースへ案内します。利用者カードを配布し、使用できるトイレや水道の場所を案内します。

(2) 情報の提供

館内放送やテレビ、ラジオ等の設置により、災害情報の提供を行います。

(3) 備蓄物配布

簡易食料、飲料水、防寒シート・携帯トイレを準備し、状況に応じて利用者の協力のもと、配布します。

(4) 要支援者への対応

高齢者、障害者、妊婦、子ども等に対して適切な対応をお願いいたします。

(5) 特設公衆電話の設置

帰宅困難者が家族の安否確認等を行う通信手段を確保するため、特設公衆電話を設置し、案内します。

6 支援の期間

被災の状況に応じて、大規模地震発生後から数日間にわたり対応する必要があると考えられます。なお、災害時要援護者の代替輸送については国や近隣自治体と連携して検討を進めています。

災害時要援護者への支援例

1 車いすを利用している人への支援

車いすには、手動車いす、電動車いす、手動兼用型切替式電動車いす、スクーター式電動車いすなどがあり、最近では軽量化が進んでいますが、電動車いすの重量は、約 40～60kg前後又はそれ以上のものもあり、人を乗せたまま持ち上げることは非常に困難です。

介助の前に、本人に介助方法を確認しましょう。また、可動部分や取り外し可能な部分など、車いすの構造をよく確認しておきましょう。

車いすを動かすときや進行方向を変更するときには、事前に「今から動きます」「前に進みます」などの声をかけ、安心してもらうことが大切です。

また、車いすを止めるときやバックするとき、曲がるときにも、声をかけましょう。

段差があるときは一時停止をしてから越えて下さい。スロープを下りるときは、後ろ向きに下りるようにします。

2 杖を使っている人への支援

ペースに合わせてゆっくりと対応し、慌ててつまづくなどの思わぬ事故を防ぎます。できれば移動距離が短く、階段等の段差が少ないルートを勧めてあげます。

3 聴覚障害のある人への支援

会話をする時は、なるべく前を向き、はっきりとした声でゆっくり話そうように心がけてください。話の内容を理解するのに話し手の口元の動きを手がかりにしていることがあるからです。固有名詞や数字などはできるだけスマートフォンや紙などで伝えましょう。FM補聴器(FM電波を利用して離れた場所まで音声が届ける補聴機システム)を使用している場合は、専用のFMマイクを使用します。

4 赤ちゃん連れの母親への支援

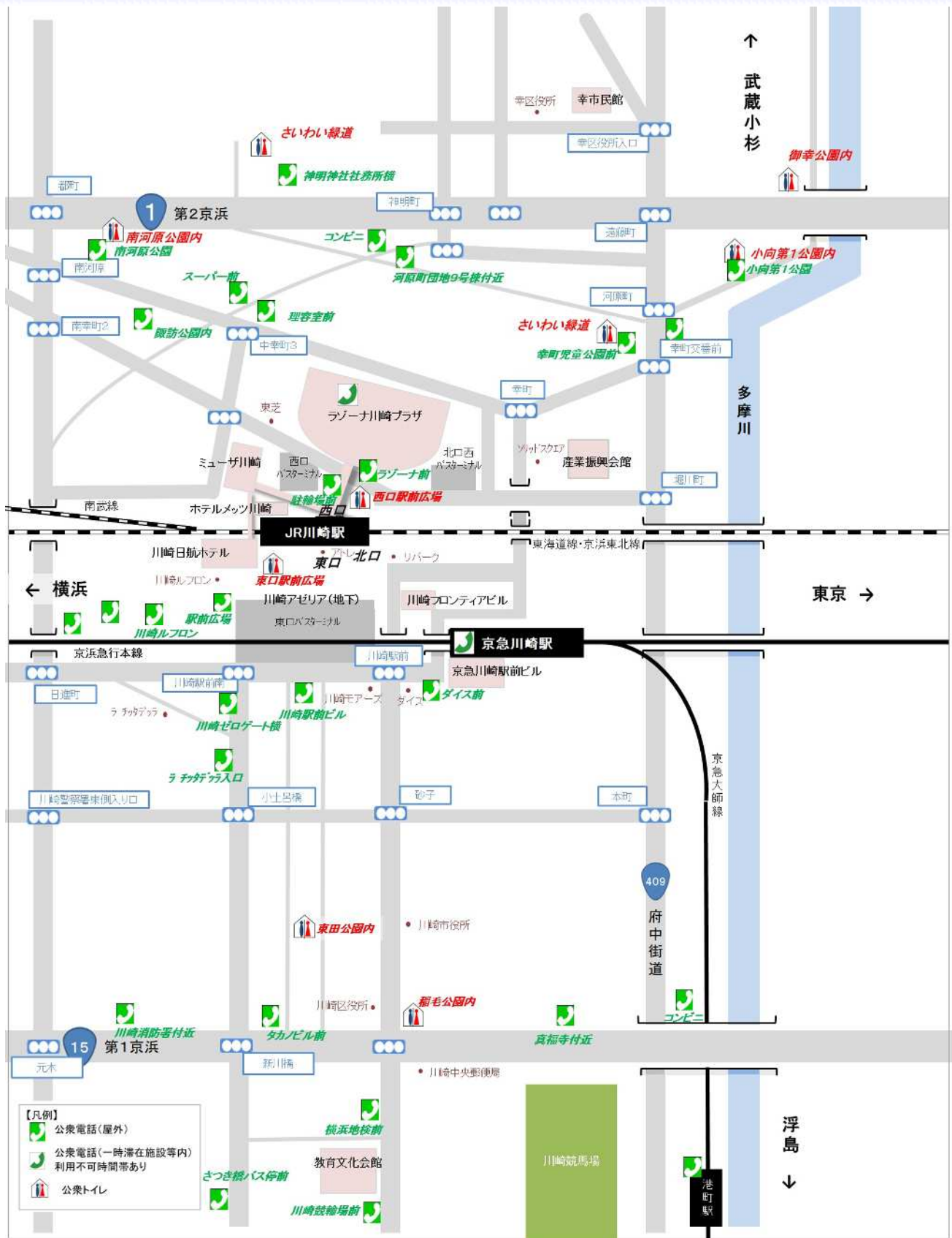
授乳ができる場所として、カーテンやパネルで仕切られたスペースや別室等、人目を気にせず授乳ができる場所を提供しましょう。ミルク用のお湯を提供いただくとさらに助かります。また、可能な限り、安全におむつ替えができる場所も確保しましょう。

5 日本語が分からない人への支援

川崎市の防災啓発広報誌「備える。かわさき」では、やさしいにほんご版、英語版、中国語(簡体字)版、ハングル語版、ポルトガル語版、スペイン語版、タガログ語版のパンフレットを作成しています。その資料を活用した支援もできます。国際交流センター(044-435-7000)や川崎区役所(044-201-3113)でも外国人の相談を受け付けることができます。(対応可能な曜日と時間が決められています。)

一時滞在施設では、提供スペースやトイレ、立入禁止場所がすぐわかるよう、誰もが分かりやすい画像を使用した平面図を作成しておく効果的です。

公衆電話・公衆トイレ



簡易無線機 (一時滞在施設、駅、区)	チャンネル: 30ch(川崎区)、31ch(幸区)
区危機管理担当	電話 : FAX : Eメール :
災害情報	市ホームページ:「川崎市防災情報ポータルサイト」 https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/index.shtml 電車運行状況 「JR東日本運行状況」 https://traininfo.jreast.co.jp/train_info/kanto.aspx 「京急運行状況」 https://unkou.keikyu.co.jp/ バス運行状況 市バス : https://www.city.kawasaki.jp/820/ 臨港バス : https://www.rinkobus.co.jp/ 東急バス : https://www.tokyubus.co.jp/top/index.shtml 京急バス : https://www.keikyu-bus.co.jp/ ラジオ : かわさきFM(79.1MHz) …インターネットで視聴できます(「サイマルラジオ」) テレビ : tvk(テレビ神奈川3ch)データ放送 SNS : X「 kawasaki_bousai 」
一時避難場所	施設内の安全確保場所 () 施設の安全確認の間は、 () 施設の崩壊や周辺の危険時は、 ()